

アクセス



車で

- 札幌市から様似町へ
高速道路(札幌～苫小牧東～門別富川)経由で、約3時間30分
日高自動車道は、日高富川ICまで延長開通しました。
- 千歳空港から
約2時間30分～3時間
- 帯広市・帯広空港から(天馬街道経由、または広尾・えりも経由)
約2～2時間30分
- 釧路市から
約3時間30分

鉄道・バスで

- 札幌市から様似町へ
 - 鉄道(JR北海道): 札幌-苫小牧のりかえ-日高本線で様似へ
 - 高速バス: 札幌駅前-様似-えりも、札幌駅前-静内-浦河
- 新千歳空港から
 - 鉄道(JR北海道): 新千歳空港-南千歳-苫小牧-様似
 - 高速バス: 新千歳空港-苫小牧-浦河

お問い合わせ

様似町役場

〒058-8501 北海道様似郡様似町大通1丁目21番地
TEL 0146-36-2111(代表) FAX 0146-36-2662

URL <http://www.hokkai.or.jp/samani/>
E-mail samani@aoros.ocn.ne.jp

パンフレット内のイラスト/ひらかわしょうじろう

※無断での複写・転載を禁じます。

宿泊

アポイ山荘

〒058-0004 様似町字平宇479番地の7
TEL 0146-36-5211

岩手屋旅館

〒058-0026 様似町本町2丁目54
TEL 0146-36-2105

旅館 関白

〒058-0024 様似町会所町12
TEL 0146-36-5533

民宿 むかい

〒058-0014 様似町大通3丁目63-4
TEL 0146-36-3247

ビジネスホテル プラザ味寿々

〒058-0014 様似町大通1丁目13
TEL 0146-36-2159/36-4450

駅前民宿

〒058-0014 様似町大通1丁目17
TEL 0146-36-2502

民宿 味方村

〒058-0014 様似町大通1丁目
TEL 0146-36-2363

アウトドア

アポイ山麓ファミリーパークキャンプ場

様似町字平宇
利用期間: 4月下旬～10月中旬
問合せ先: アポイ山麓自然公園管理事務所(期間中)
TEL 0146-36-2415
様似町役場(期間外)
TEL 0146-36-2111

様似ダムキャンプ場

様似町新富
利用期間: 5月1日～10月31日
問合せ先: 様似町役場
TEL 0146-36-2111

アポイ山麓パークゴルフ場

様似町字平宇
利用期間: 4月中旬～11月30日
問合せ先: アポイ山麓パークゴルフ場クラブハウス・アポイ
TEL 0146-36-3636

親子岩ふれ愛ビーチキャンプ場(海水浴場)

様似町西町
利用期間: 5月1日～9月30日(海水浴期間: 7月上旬～8月下旬)
問合せ先: 親子岩ふれ愛ビーチセンターハウス(期間中)
TEL 0146-36-5555
様似町役場(期間外)
TEL 0146-36-2111



ようこそ。
アポイ岳 ジオパークのまちへ。

Welcome to Mt. APOI GEOPARK in SAMANI town

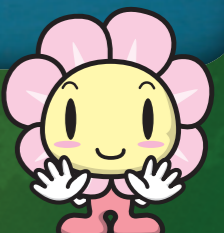


北海道 日高 様似町

HOKKAIDO HIDAKA SAMANI TOWN



カンランくん



アポイちゃん

日高の山並みと太平洋の海。ここにアポイ岳のありさま。

かんらん岩：日高山脈は約1,300万年前に2つの大陸プレートが衝突したことによって生まれましたが、その際、地下深くのマントルが地上に押し上げられ、アポイ岳を含む「幌満かんらん岩体」と呼ばれる直径10kmほどの山塊がつけられました。「かんらん岩」そのものがマントルを起源とする特殊な岩石であることに加え、幌満かんらん岩体は世界でも例がないほど新鮮な状態で地表に表れているため、地球内部の状態を知る上で貴重な場所として国際的にも非常に注目されています。

高山植物：アポイ岳では特殊な地質や気候により、810mという低標高であるにもかかわらず高山植物が生育していて、ヒダカソウなどの固有種を含む高山植物群落は国の特別天然記念物に指定されています。

歴史・文化：様子は北海道の中では比較的早くに拓けた場所で、江戸後期には「シャマニ会所」が開かれるなど東蝦夷地の要衝として栄えましたが、それは、今なお残る様子海岸の地形が天然の良港であったことが大きな理由です。

「アポイ岳ジオパーク」は、こうした様子町の自然や歴史、文化を丸ごと学び楽しむためにつくられたジオ(エコ)ツーリストのための大地の公園です。アポイ岳ジオパークで、火山とは一味違った地球変動や日本列島の成りたちをぜひ体感してください。



地球の詩。大地のビッグロマンを 身近にたのしんで。

ジオツーリズム

「ジオツーリズム」とは、ジオ(地球と大地)に親しみジオを学ぶ旅です。例えば山や川へ行って、地形・岩石・地質などを観察し、数万年、数百万年、あるいは数億年という過去から現在までの自然の移り変わりを実感します。また、地形や地質とそこに住む人間の文化や伝統との関わりを考えます。

山や川の地形と、それを作っている岩石や地層を科学の目で見ると、その風景がどうやってできたのか、岩石を見ると、地球の内部で何が起きているかがわかります。また、地層をよく調べると大地の歴史を読み取ることができます。同じように海岸線や湖沼、渓谷や大地、山脈や半島、などなど、様々な地球の表情は多くを語りかけてきます。

「ジオツーリズム」はあたらしい、足元の身近な体験です。地面の下にある岩石や地層から宇宙まで、遠い過去から未来まで、山と川と海について、人間などの生き物と岩石と水と大気について、それらを体験的に考える旅、つまり、地球を丸ごと考える旅です。



ジオサイト C3 エンルム岬

ジオパーク

「ジオパーク」はジオツーリズムを楽しく体験する自然の中の公園です。地球や大地をあらわすジオ(Geo)と公園を意味するパーク(Park)をあわせた造語です。ですからジオパークは地形学的、地質学的に重要で保全する価値のある場所、地質遺産を主な見所とする公園です。この科学的に貴重な、あるいは景観として美しいエリア(公園)を

① 保全して後世に伝える

② 教育や研究に活用する

③ 地域振興に活用する

ことを目的としています。



幌満かんらん岩でつくられた北大総合博物館のモニュメント

地球大地の自然遺産。

ユネスコ支援の「世界ジオパークネットワーク」

「地球や大地の体験公園」ジオツーリズムから生まれた世界各国各地のジオパークは、ユネスコが支援する運動として推進されています。

2004年には「世界ジオパークネットワーク」(GGN)が設立され、このGGNがジオパーク推進の核になっています。各国にあるジオパークのうち、GGNの基準を満たす優れた活動を行っているジオパークがGGNに加盟を認められています。

GGN加盟のジオパークはジオパーク発祥のヨーロッパと中国に集中していましたが、このジオパーク運動は急激に世界化の動きを見せ、2010年現在、世界25カ国、77カ所のジオパークがGGNに加盟しています。

日本では国内に展開する「日本ジオパークネットワーク」(JGN)のうちから洞爺湖有珠山ジオパーク、糸魚川ジオパーク、島原半島ジオパーク、山陰海岸ジオパークの4カ所がGGNに昇格加盟しています。

日本列島新風景。

各地ご注目の「日本ジオパークネットワーク」

GGNの下部組織として「日本ジオパークネットワーク」(JGN)があります。日本列島には地形的・地質的にジオパークに適した地域が数多くありますが、2008年に国内7カ所の地域が日本初の「日本ジオパーク」に認定されて以降、これまでに計14カ所の日本ジオパークが誕生しています。

列島の仲間と共に

「アポイ岳ジオパーク」誕生

世界的に盛り上がりを見せるジオツーリズムとジオパーク。その日本国内組織が「日本ジオパークネットワーク」です。北海道では、洞爺湖有珠山ジオパーク、白滝黒曜石ジオパーク、そして、わたしたち様似町のアポイ岳を中心とした地域が日本ジオパークに認定されています。国内の他のジオパークとのノウハウの共有や人物交流を通じ、さらに世界ジオパークとの一体化で、あたらしい地域発展を目指します。



岩と植物と歴史のパークエリア ジオサイト案内

3つのテーマと5つのエリア、33のジオサイト(見どころ)

●テーマA: Peridotites かんらん岩から大地の変動を学ぶ ●テーマB: Alpine Plants アポイ岳の高山植物から自然環境を学ぶ ●テーマC: Human History 歴史から自然と人間社会の共生を学ぶ

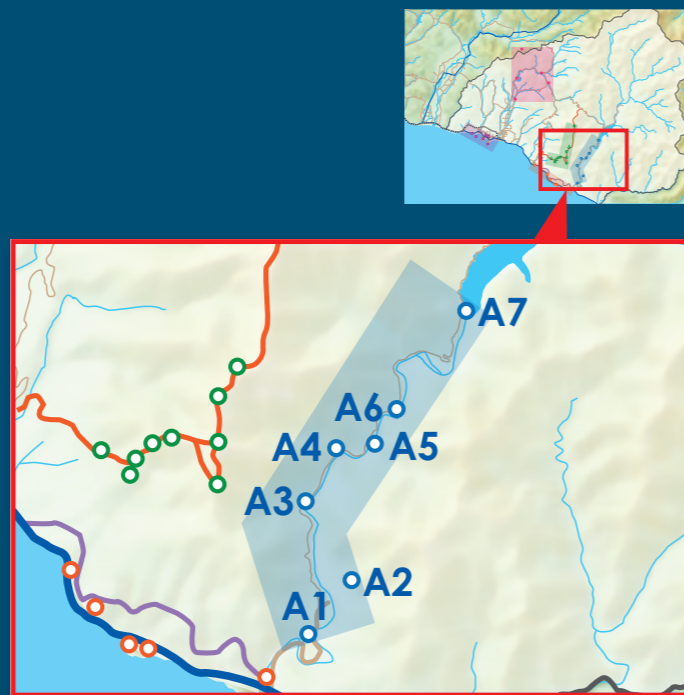


多彩なかんらん岩がつくる峡谷 幌満峡エリア

私たちの足下の地下には、地殻と呼ばれる厚さ30～40kmの層があり、いろいろな種類の岩石が分布しています。地球の半径は6,400kmもありますので、地球をゆで卵に例えるなら地殻は殻にあたる薄い部分にあたりません。地殻の下にはゆで卵の白身にあたる部分が厚く分布していて、「マントル」と呼ばれています。

このマントルは「かんらん岩」からできています。このかんらん岩が第三紀中新世(1,300万年前)の日高山脈の上昇に伴って働いた強い力で押し出され、地上に上昇してきたものが「幌満かんらん岩体」で、新鮮なマントル物質を地上に居ながら観察できるという点で世界的にも大変貴重なものです。

幌満峡はこの岩体がつくる渓谷で、国の天然記念物に指定されているゴヨウマツが自生するなど、豊かな自然が残っています。



HOROMANKYO AREA



ジオサイト Geosite A3

ゴヨウマツ記念碑

天然記念物・幌満ゴヨウマツ自生地の記念碑がある付近の河岸。ここでは、「レルゾライト」と呼ばれる輝石を多く含むかんらん岩が見られます。幌満川対岸の斜面一帯はゴヨウマツの自生地として国の天然記念物に指定されているほか、近くでは氷河期の生き残り・ナキウサギの海拔50mでの生息も確認されています。



ジオサイト Geosite A6 幌満川稲荷神社

幌満川稲荷神社と旧第1発電所の100m上流の河岸では、斜長石を含むかんらん岩(斜長石レルゾライト)が観察できます。斜方輝石(濃褐色)や単斜輝石(暗緑色)の量が多く、輝石の目立つタイプで、白く筋状に見える部分に斜長石が含まれています。



また、この露頭には急流で見られる円筒状の穴(甌穴・ポットホール)が多くあり、特徴ある景観を見せています。稲荷神社は、この峡谷に水力発電所を建設した日高電燈株式会社(現日本電工)とその従業員の寄進により昭和11年に建立されたものです。



ジオサイト Geosite A7 幌満ダム(第3発電所堰堤)

幌満ダム周辺は、幌満かんらん岩体の北縁部にあたります。ここから日高山脈の脊梁部までは、黒雲母片麻岩や角閃岩などの変成岩、かんらん石はんれい岩やトータル岩などの深成岩が分布します。峡谷をつくっていた幌満川流域の地形がここから急になだらかになるのは、地質の構成が堅いかんらん岩から変成岩になっているためです。第3発電所堰堤として1954年(昭和29年)に完成したこのダムによってできた湖の下には、大泉と呼ばれた集落が今も眠っています。



ジオサイト Geosite A1

第2発電所

幌満峡入口の発電所前の露頭。幌満かんらん岩体の南縁にあたります。



ジオサイト Geosite A2

東邦オリビン工業

かんらん岩の採石場。かんらん岩は工業資材や肥料として活用されています。



ジオサイト Geosite A4

不動の沢

不動明王の祠がある沢の付近では、輝石が少ないタイプや斜長石を含むタイプなど様々なかんらん岩が見られます。



ジオサイト Geosite A5

第2発電所堰堤

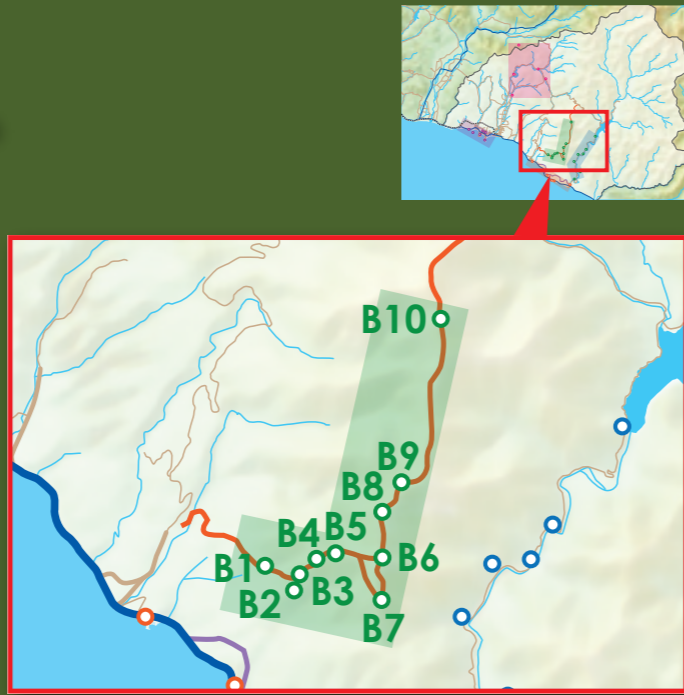
堰堤下の河岸には、かんらん石が大部分を占めるタイプのかんらん岩が分布しています。

かんらん岩がつくる固有の高山植物 アポイ岳エリア

アポイ岳(810.2m)は、山全体が地球深部の上部マントルに由来する「かんらん岩」でできています。特にアポイ岳ではかんらん岩のほか、はんれい岩なども分布していて、これらの岩石の積み重なりや鉱物の並びが美しい縞状の構造をつくっています。

超塩基性岩であるかんらん岩は、アポイ岳に貴重な自然環境をもたらしています。ヒダカソウなどの高山植物群落は国の特別天然記念物に指定されています。低山であるにもかかわらず、高山植物が息しているのは、超塩基性岩であるかんらん岩が影響しているといわれています。

アポイ岳は、海岸線からわずかに4kmのところにあります。天気の良い日には眼下に太平洋の雄大なパノラマ、北方に目を転ずれば、日高山脈の脊梁がはるかに連なり、足元には可憐な花たちが登山者を迎えてくれます。



この立体地形図は「カシミール3D」を使用して作成しました。なお、登山道・道路などは概要を示したもので、位置は多少の誤差があります。



Pickup!

ジオサイト Geosite B5 馬の背お花畑

「馬の背」と呼ばれているアポイ岳西方の尾根。ここから、アポイ岳山頂と北尾根のスカイラインに目をやると、吉田岳、さらにその北側にピンネシリ山頂が見えます。ところどころに露出している岩肌は、アポイ山塊がかんらん岩の山であることを実感させてくれます。遠く北に連なる山々は、楽古岳や野塚岳など日高山脈南部の脊梁をつくっています。また、「馬の背」から山頂にかけての登山道には、アポイアズマギクやエゾコウソリナなどの花々が咲き添い、登山者の目を楽しませてくれます。



Pickup!

ジオサイト Geosite B8 アポイ～吉田間

アポイ岳の頂上から北方の稜線沿いに、かんらん岩の岩場が点々と続いています。この付近のかんらん岩は、主に斜長石を含むかんらん岩(斜長石レルゾライト)からできています。特徴的に、層厚が約1～数cmの板状のはんれい岩質部が繰り返し出現するために、みごとな互層状のかんらん岩を見ることができます。吉田岳へと続くこのルートを行く登山者は多くはありませんが、岩場が続くことから、今ではアポイでもっとも花々が咲き誇るお花畑で、隠れたポイントとなっています。



Pickup!

ジオサイト Geosite B6 アポイ岳

アポイ岳の頂上はダケカンバなどの樹林帯になっています。本来、高山植物が生育する山の頂上が樹林に覆われていることなど考えられず、アポイ岳の不思議のひとつとなっています。アポイの名は、アイヌ語の「アペ(火)・オイ(多い所)・ヌプリ(山)」が略されたもので、意識では「大火を焚いた山」となります。昔、アイヌの人々の食料であった鹿の豊猟を、火を焚いてカムイ(神)に祈ったという伝説に由来しています。



ジオサイト Geosite B4 6～7合目

6合目付近から7合目の手前にあるかんらん岩の岩場。この付近では、はんれい岩質の層とかんらん岩の層が交互に出現する様子を観察することができます。



ジオサイト Geosite B7 幌満お花畑

アポイ山頂下の南尾根鞍部に形成されるお花畑。ここからは、太平洋や襟裳峠が一望できます。



ジオサイト Geosite B10 ピンネシリ

幌満かんらん岩体の北側に位置する山(標高958.2m)です。山頂からは太平洋～日高山脈を360度見渡すことができます。



ジオサイト Geosite B1 第4休憩所

休憩所脇を流れる小川にはニホンザリガニも生息しています。



ジオサイト Geosite B3 5合目山小屋

5合目にある避難小屋。天候が良い日にはここからアポイ岳の頂上と太平洋が展望できます。



ジオサイト Geosite B9 吉田岳

アポイ岳とピンネシリの中間にある、幌満かんらん岩体の最上部に位置する山です。



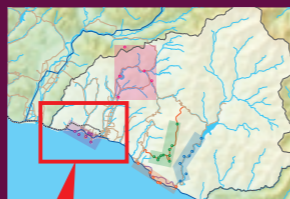
ジオサイト Geosite B2 高山植物再生実験地

5合目山小屋の下方に設けられた高山植物の再生実験地。地元アポイ岳ファンクラブ会員らが管刈りなどを行い、花の再生の経過を観察しています。

海岸の奇岩がもたらした交易拠点 様似海岸エリア

様似市街地の海岸では、ひん岩の岩脈がいくつもの奇岩となって風光明媚な景観をつくっています。あたかも親子のように寄り添っている親子岩、烏帽子岩とも呼ばれるソビラ岩などと並んで、様似漁港の東岸をなしているのがエンルム岬です。高さ60mほどの陸繋島で、岬の裏側では地下の岩脈でマグマが冷えたことを示すダイナミックな「節理」が見られ、岬の台場からは様似町の全景を一望することができます。

エンルム岬は、東西が丸い形になっていて、船を泊める場所として最適だとして、江戸時代から東蝦夷地における北前船流通の要衝でした。1799(寛政11)年に江戸幕府がこの地に「会所」を設けたことが様似の発祥となっていて、今でも「会所町」の名が住所として残っています。



ジオサイト Geosite C1

塩釜トンネルとローソク岩

昔、鵜苫と様似を画していた岬とその傍らに屹立する奇岩。大正時代にトンネルができるまでは、背後の丘の上を人々が往来していました。塩釜の名は、江戸後期、岬(トンネル)の西方に製塩所があったことに由来します。また、ローソク岩は、巨神・アイヌラックルが落とした焼串が岩になったもので、トンネル背後の丘は彼が尻もちをついた跡であると、アイヌの伝説は語っています。(ローソク岩は、近年の地震により先端が一部崩落しています。)

ジオサイト Geosite C2 親子岩とソビラ岩

親子岩はアポイと並ぶ様似の名勝です。各地に夫婦岩と呼ばれるものはあっても、まるで親子のように3つの岩が寄り添っているものは多くありません。親子岩を望む海岸には整備された海水浴場とキャンプ場があり、夏場は観光客でにぎわいます。ソビラ岩は、その形状から烏帽子岩とも呼ばれます。昔は海中に屹立する岩でしたが、現在は埋め立てられた様似漁港の内にあります。この2か所の岩は、アイヌの伝説では父と母子とされています。



ジオサイト Geosite C3 エンルム岬

アイヌ語のエンルムは「尖り頭」の意で、これを地名に用いるときは岬と解します。古くから東蝦夷地の航路として欠かすことのできない良港でした。この岸壁にはオオセグロカモメのコロニーがあるほか、エゾイヌナズナやヒダカミセバヤといった海食崖植物が豊富です。また、特筆すべきはミヤマオダマキをはじめとする高山植物が生育していることで、サマニヨモギの最初の発見地でもあります。



ジオサイト Geosite C4 観音山

様似漁港を見下ろす標高約100mの釣鐘状の山。「観音山」の名は、1895(明治28)年に蝦夷三官寺・等澗院中興の祖である塚田純田が33体の観世音(石像)を安置したことに由来し、山頂近くのカシワの巨木(樹齢400年以上)は「神木」として崇められ、北海道の名木としても指定されています。全山、広葉樹に覆われ、林床は4月下旬からエゾエンゴサク、アズマイチゲ、カタクリなど、5月にはオオバナノエンレイソウの群落でお花畑となり見事です。



ジオサイト Geosite C5 等澗院(護摩堂)

1806(文化3)年に江戸幕府が建立した直轄の官寺で、有珠の善光寺、厚岸の国泰寺と並び「蝦夷三官寺」と称された寺院です。

プレートの衝突現場といにしえの道 日高耶馬溪エリア

アポイ岳の南部、冬島の穴岩から幌満川河口にかけて約6km続く断崖絶壁の海岸線は、「日高耶馬溪」と呼ばれています。アポイ岳が太平洋に沈み込む所で、かつて日高山脈がつくられた頃の北米プレートとユーラシアプレートの境界部とされています。ここでは、日高山脈の西側を約120kmにわたって続く「日高主衝上断層」の一部や、ホルンフェルス、変はんれい岩、片麻岩、角閃岩などの変成岩類を見ることができます。

昔この辺りは、波の引間を狙って走り抜け、あるいは崖をよじ登るなどして通らなければならない交通の難所でした。このため、1799(寛政11)年に江戸幕府によって断崖上に「シャマニ山道」が開削されました。海岸に道路ができると次第に山道は使われなくなりましたが、現在は「様似山道」の名でいにしえの道として親しまれています。



HIDAKA YABAKET AREA



ジオサイト Geosite D1 冬島の穴岩

冬島漁港内にある穴の開いた大岩。アイヌ語で「ブユ」穴・シュマ(岩)」といい、今の冬島という地名もこの名に由来します。本来は高さ9m以上の大岩で、昭和23年の築港以前は、満潮時に磯船がこの穴を往来していました。岩には、堆積岩の特徴である細かな層の積み重ねが見られますが、地下深部で高温にさらされたため黒雲母ができ、ホルンフェルスと呼ばれる変成岩になっています。交通の難所であった日高耶馬溪の入口として、谷元旦(谷文晁の弟)など江戸後期にここを通過した旅人のほとんどがこの石門を記録しています。

ジオサイト Geosite D4 大正トンネルの花こう岩類

大正時代に掘られた旧トンネルの西口付近では、花こう岩類(花こう閃緑岩、トータル岩)が日高変成帯の片麻岩に岩脈として貫入している様子を見ることができます。片麻岩は、泥岩などから変わった変成岩で褐色に見え、片麻状構造と呼ばれる面が多数できています。花こう岩類は変質により少し緑色を帯びて緑灰色になっています。この辺りは、アイヌ語で「チコシキリブ(我々を捨てて走らせるもの)」と呼ばれた日高耶馬溪の難所のひとつで、明治・大正・昭和のトンネルが今も横一列に並んでいます。磯場に立つと、西はエンルム岬や様似市街、東は日高耶馬溪の海食崖から遠くはえりも岬まで望むことができ、付近のオホナイの滝(通称、円館の滝)は年中涸れることはありません。



ジオサイト Geosite D2 日高主衝上断層

東冬島トンネル東口付近の国道脇の断層破砕帯。この南西側には変成したはんれい岩(ポロシリオフィオライト帯)、北東側には片麻岩や角閃岩(日高変成帯)が見られますが、この2帯の境界が「日高主衝上断層」で、破砕された蛇紋岩(露頭上部の黒っぽい部分)がはさまっています。日高主衝上断層は、この辺りから狩勝峠付近まで日高山脈の西側を約120kmにわたって続く大断層で、日高山脈がつくられた当時の北米プレートとユーラシアプレートの境界部であったと考えられています。



ジオサイト Geosite D6 様似山道と和助地蔵

様似山道は、日高耶馬溪の断崖上に続く山道で、1799(寛政11)年に北方警備のために江戸幕府によって開削された北海道における初期の国道です。1884(明治17)年、植物採集旅行に出た札幌農学校の宮部金吾博士は、この山道で新種サマニカラマツを発見し、それがアポイ岳高山植物を解明する契機となりました。和助地蔵は、様似山道の開削に尽力し、土地の分限者として集落民の信望を集めた「斉藤和助」をまつる地蔵尊。現在でも、毎年春には地域住民による慰霊祭が行われています。



ジオサイト Geosite D3 変はんれい岩

コトニ覆道の上や山中トンネル西口の国道沿いなどには、変質したはんれい岩が分布しています。



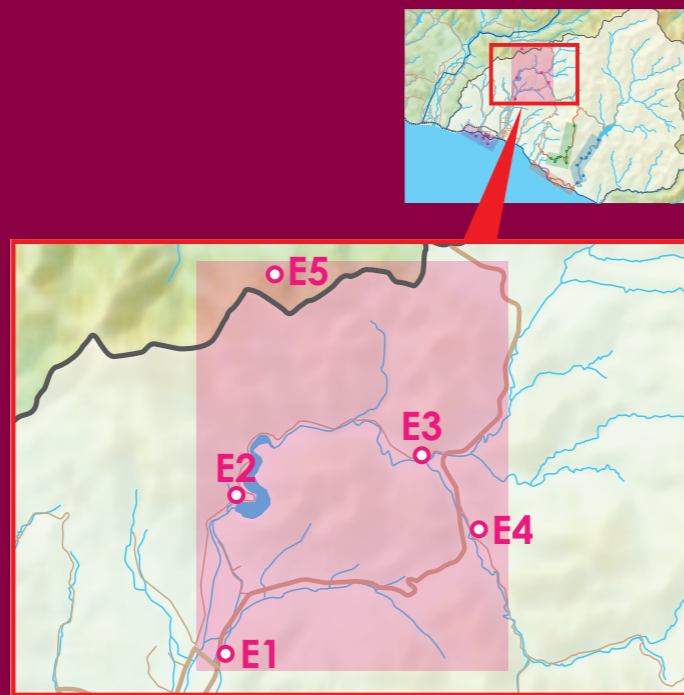
ジオサイト Geosite D5 角閃岩の褶曲

ルランベツ覆道横の岩場では、地層が強い力で押し曲げられてきた、片麻岩と角閃岩が褶曲している様子を見ることができます。

はるか南の海からやってきた岩石

新富エリア

新富周辺では、石灰岩やチャートなど白亜紀の「付加体」を構成する岩石を見ることができます。付加体とは、海洋プレートが海溝に沈むとき、その表層が大陸プレートに付け加わったもので、陸側(アジア大陸)の堆積物である砂岩・泥岩と、何千kmもはるか南方の海からやって来た石灰岩・チャート・玄武岩が混じり合い強く変形を受けて、「メランジュ」と呼ばれる異なる岩石の乱雑な集合体をつくっています。この白亜紀にできた付加体は、北海道からサハリンまで続いていて、「インドナップ帯」と呼ばれています。日本列島は、アジア大陸の東側に次々に形成された付加体の集合としてできました。



E3 チャート

SHINTOMI AREA



ジオサイト Geosite E4 石灰岩のブロック

道道から松岡沢に入るとすぐの山腹に石灰岩の廃鉱があり、黒色～暗灰色の破碎された泥岩や砂岩の中に、白っぽい石灰岩がレンズ状～玉状にちらばっているのが見えます。これはさんご礁をつくっていた石灰岩が海洋プレートに乗って南からやってきたこと、アジア大陸側から運ばれたと考えられる泥や砂が、何らかの原因により乱雑に入り混じったことを示しています。このような産状は「メランジュ」と呼ばれていて、海洋プレートが大陸プレートにもぐり込む場所で、付加体として形成されたと考えられています。



ジオサイト Geosite E3 チャート

様似川とメナシエサンベツ川の合流点付近の道路沿いに、灰色でやや透明感のあるチャートが分布しています。チャートはち密で非常に硬く、主として微細な石英からなります。石灰岩とともに海洋プレートに乗って、南方の海からやってきました。ここでは見られませんが、赤い色をしたものもあり赤色チャートと呼ばれます。逆に、この露頭のものより黒いチャートもあります。赤いチャートは酸化鉄の色で、酸素が多い環境ででき放散虫を含みます。一方、黒いチャートは酸素の少ない環境で黄鉄鉱などの鉱物ができています。こちらは化石を含まないので、酸素不足で生物が大量絶滅した時代のものと考えられています。



ジオサイト Geosite E2 レンズ状の砂岩

様似ダム駐車場手前の坂の途中に砂岩・泥岩が露出しています。崖の地層は泥岩ですが、その中に地層としてつながらないレンズ状の砂岩があり、典型的なメランジュの構造を見ることができます。ここでは、陸側の堆積物である砂岩泥岩しか見られませんが、新富エリア内には遠洋性堆積物である石灰岩やチャートの露頭が点在しています。



ジオサイト Geosite E1 小野工業

付近の石灰岩から肥料や工業用資材を製造しているプラント裏の露頭。泥岩や砂岩の中に白っぽい石灰岩が見られます。



ジオサイト Geosite E5 ムコロベツ鉱山

浦河町上柙白にある石灰岩採掘場。石灰岩の形成年代は三畳紀後期(約2億2000万年前)です。

日本で一番早く 一番長く 高山植物の花が 楽しめる山

1952(昭和27)年、アポイ岳の「高山植物群落」は、国の特別天然記念物に指定されました。



アポイ岳は、かんらん岩という超塩基性の特殊な土壌条件に加え、海に近く海霧や強風の影響を大きく受け、また、冬季の少雪という気象条件により、低標高ながら稜線部に高山植物が成立し、ヒダカソウやエゾコウゾリナ、アポイカンバといった固有種をはじめ、多くの固有植物の生育を可能にしています。

積雪の少なさは高山植物の開花時期に影響を与えますが、アポイ岳では通常の高山植生を持つ山と比べて圧倒的に積雪が少なく、4月半ばにはおおむね雪が消えてしまうため、5月初旬からサマニユキワリなどが開花し始めます。また、低山であることから初雪の時期も遅く、10月のコハマギクまで半年近くもの長い花期を有して、「日本で一番早く、一番長く高山植物の花が楽しめる山」として親しまれています。

しかし、長い間続いた、心無い人たちによる盗掘により希少な高山植物は減り、それに追い討ちをかけるように地球温暖化が寒冷な地を好む高山植物たちを追いやるようとしています。

ヒダカソウ 日高草 Callianthemum miyabeianum 花期：5月

固有種

ヒダカソウの仲間、キンボウゲ科キタダケソウ属で世界に14種ほどあり、日本では、ヒダカソウ(アポイ岳)・キタダケソウ(本州北岳)とキリギシソウ(北海道支庁知床山)の一属三種でいずれも固有種になっている。

ヒダカソウは、1970年ごろまでは、幌満お花畑を中心に吉田岳までの稜線上、また吉田岳西斜面には普通に見ることができた。それが、繰り返されてきた盗掘により激減し、さらには地球温暖化により、もうすぐ目の前に絶滅を向かえる段階に入っている。



固有種

エゾコウゾリナ

蝦夷髪荊菜

Hypochoeris crepidioides

花期：6月中旬～7月

タンポポを一回り大きくしたような花だが、アポイ岳の固有種で、茎などに毛が多いのが特徴である。



固有変種

サマニユキワリ

様似雪割

Primula modesta var. *samanimontana*

花期：6月中旬～7月

春一番に咲き出す人気者。ピンクで可愛いサクラソウの仲間。



固有変種

アポイアズマギク

あぼい東菊

Erigeron thunbergii var. *angustifolius*

花期：5月～6月

春から初夏にかけ咲く、アポイ岳でもっともポピラーな花のひとつ。薄紅紫色の花も見られる。



固有変種

アポイマンテマ

あぼいまんてま

Silene repens var. *apoiensis*

花期：7月中旬～9月

おもしろい名前の花だが、夜中心に花を咲かせるため、天気の良い日は朝早くに見なければ、しぼんでしまう。



準固有種

ヒダカイワザクラ

日高岩桜

Primula hidakana

花期：5月

名前のとおり、岩のすき間などから、草丈のわりに、大きなピンクの花を一茎に一個咲かせる。



準固有変種

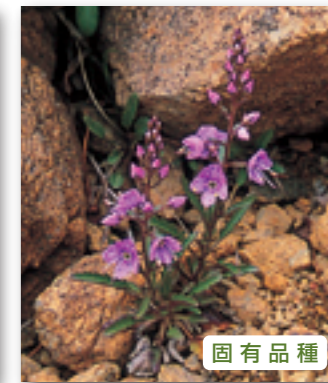
エゾキスミレ

蝦夷黄堇

Viola brevistipulata var. *hidakana*

花期：5月中旬～6月上旬

濃い緑の葉が厚く光沢があるため、黄色い花をより目立たせる。この花が咲いているところが春の花たちのピークである。



固有品種

アポイクワガタ

あぼい鋏形

Veronica schmidtiana var. *yezoalpina* f. *exigua*

花期：6月

がらがらと岩礫が崩れるようなところを好んで咲く花で、長いシベを鋏形に見たて付けられた名前である。

固有のカタツムリや高山蝶も…



固有種

天然記念物だよ!

ヒメチャマダラセセリ

Pyrgus malvae

日本では、アポイ岳周辺でしか見られない高山蝶で、氷河期の生き残り。1973年北大の学生により発見され、75年には国の天然記念物に指定された。食草はキンロバイ。



固有種

アポイマイマイ

Paraegista apoiensis

かんらん岩の影響で進化した陸貝。アポイ山塊とその周辺、幌満川沿いに生息する固有種。殻の大きさは成体で1cm程度、褐色で表面に硬く細い毛が生えているのが特徴。



ナキウサギ

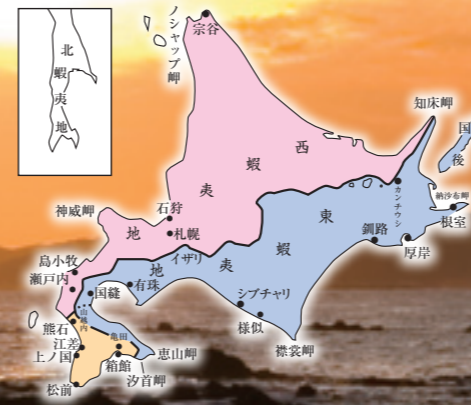
Ochotona hyperborea

氷河期の生き残りとして有名なウサギの仲間。北海道各地の高山で見られるが、アポイ岳周辺ではわずか標高50m前後という低地でも生育している。

様似風雪有情



高田屋嘉兵衛 アポイ岳を眺める



ようこそ。アポイ岳 ジオパークのまちへ。
Welcome to Mt. APOI GEOPARK in SAMANI town.

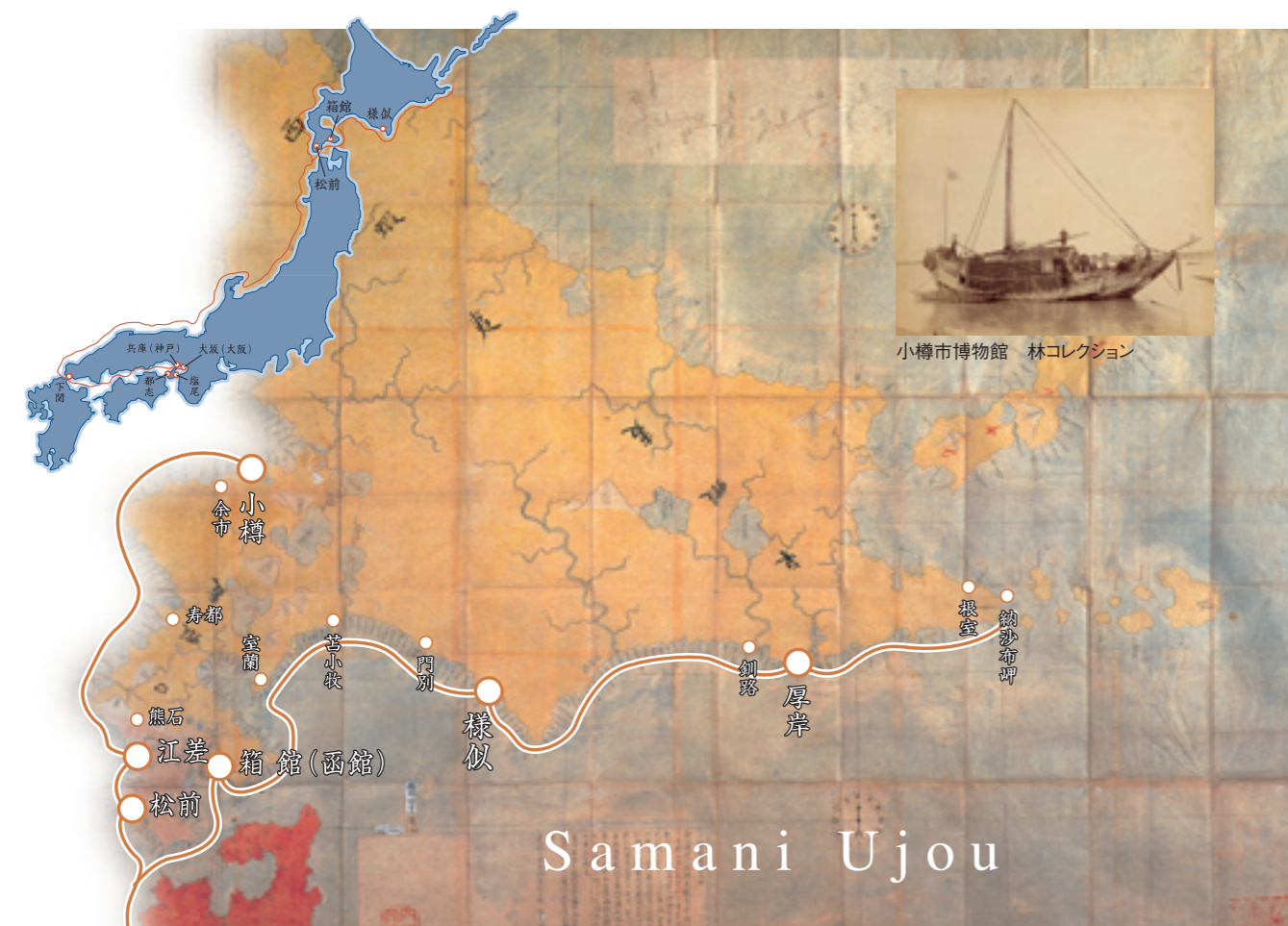
日本海の風に乗って「近世物流路」がもたらした 広域交流と北の繁栄。

近世、特に江戸時代の後半は全国各地で地域の特産物が製造され、それが商品として各地に運ばれるようになりました。商品経済と物流の時代が本格化しました。物流はそれまでの陸路に加え、海路が求められるようになりました。大量な産物や商品を一度に運べる船と航路の時代が一気にやってきました。

江戸、大阪間の「南航路」を先導として、やがて本州海岸線の北の太平洋岸をめぐる「東廻り海運」と、瀬戸内海から日本海へ出て沿岸を北上する「西廻り海運」が発達してきました。

幕府は江戸と蝦夷地をむすぶ航路を開設し、日本海岸をつたう西廻り海運はやがて当時の蝦夷地、北海道に達し日本社会の物流は豊かな北方の幸と出会いました。北海道の海産物や特産品が本州社会と結び、西廻り海運が飛躍的に発展すると共に、松前や箱館を拠点とする海運は、北海道の主に太平洋岸に太く伸びました。

道南松前地から、内浦湾、日高海岸、釧路、厚岸、それから千島列島まで、日本海につながる北前船流通が、北の各地の繁栄を築いていくことになりました。



小樽市博物館 林コレクション

Samani Ujou

ロシア南下の時勢緊白、国防のためにも「様似山道」開削。

幕末の蝦夷地や樺太、千島、当時の日本列島北方は諸外国、特にロシアの南下におびやかされました。そのうち、東蝦夷地の動向は最も緊迫したものになりました。たとえば

1778(安永7)年、ロシア船、蝦夷地(釧路、根室)に来て通商を求める。

1792(寛政4)年、ロシアの使節、根室に來航、交易を願い出る。

1797(寛政9)年、イギリス船、室蘭に來航。

といった情況で、北方多事、幕府は微力な松前藩では対応できないと考え、津軽藩に箱館警備を命じ、1798(寛政10)年、蝦夷地調査を実施しました。調査隊は東西蝦夷地の二隊に分けられ、東隊が様似にやってきました。

様似は「シャマニ会所」が開設した年度です。調査隊は会所が拠点、ここで分隊となった近藤重蔵、最上徳内は国後・択捉まで渡りました。帰ってきた近藤、

最上はサルル(えりも町目黒)と庶野間、幌満と冬島間の2ヵ所は断崖絶壁で波が高く、海岸を歩くことは大変危険、山道を作らなければ、いざというときに通れない、と報告し「サルル山道」「様似山道」を作る提案をしました。

調査隊長でシャマニ会所を開いた大河内善兵衛はただちに幕府に報告し許可を得て、最上徳内にサルル山道を、中村小市郎はシャマニ山道を担当、同時着工しました。

現様似町域の幌満・冬島間の「様似山道」は山側に迂回して大小の溪谷が多いおよそ7キロの山道ですが、工期わずか1年足らずで完成させました。この両山道が北海道の道路史を飾る、最初の官営道路です。

なお、山道開削中、最上徳内はもっと完全な道に改修すべしと主張し、工事担当を解任されています。



中村小市郎が開削する様似山道風景



谷元旦画「蝦夷奇勝図巻」より

様似風雪有情



等澗院に参拝する人々

日高の良港、 それは拠点「シャマニ会所」有りて物と人の集結

明治以前の北海道。江戸幕府体制の時代の蝦夷地はコメの収穫が無く、松前藩は全国唯一の「無石の藩」でした。コメの代わりに海産物や地場の特産品、そうした地域特性に合わせ、松前藩は「場所請負制度」を発展させました。道内の生産主要地の運営をある一定の商人に請負わせ、松前藩はその経営商人に「運上金」(税金)を支払わせました。

商取引の拠点である施設は「運上屋」と呼ばれ、やがてしだいに行政的な権限と機能を持つようになっていきました。

幕末の激動期、江戸幕府は松前藩に替わって「東蝦夷地」を支配し、商人まかせではない「直捌」と言われる直接経営をめざすようになり、「運上屋」を「会所」と言うようになりました。

松前藩では様似からエリモまでを「油駒場所」としていました。1798(寛政10)年幕府の命令で様似に派遣された大河内善兵衛は、従来の「油駒運上屋」を利用して、そこを「シャマニ会所」としました。

会所は交易をはじめ宿泊を兼ねた、この地を管理する幕府の出先機関のような所でした。会所組織のトップは「詰合」その初代が中村小市郎。会所を中心に人的交流が進み、またただちに「様似山道」の開削などの公共事業がはじまりました。本州から漁業の技術者や多くの出稼ぎの人びともやってくるようになりました。



「北海道歴史図」北海道大学附属図書館北方資料室蔵

幕末世相と人心、蝦夷地経営の一端。 幕府創建の「様似等澗院」

江戸時代は鎖国とキリシタン禁制が社会の根本でした。しかし18世紀後半になると日本列島はさまざまな外国との関わりを持つようになり、特に蝦夷地、それも太平洋岸から千島に広がる東蝦夷地はロシアなどとの関係が緊張しつづけました。接近するロシアが千島列島住民にキリスト教を広めているという伝聞は、鎖国とキリシタン禁制を同時に侵す重大事でした。

また、東蝦夷の各地には集落も増え、人心の寄りどころも必要とされました。そこで1802(享和2)年幕府の力を持って各地に寺を創建するという政策が決定されました。国是である仏教を持って地域の人びとを掌握する。そのような社会的必要から、1804(文化元)年、ウス(伊達市有珠町)、シャマニ(様似町)、アッケシ(厚岸町)の3カ所に寺の建設計画が許可されました。

こうして1806(文化3)年に有珠の善光寺(浄土宗・大白山道場院)、様似の等澗院(天台宗・帰嚮山厚沢寺)、厚岸の国泰寺(禅宗・五山派景運山)の三寺が完成しました。これが「蝦夷三官寺」の誕生でした。

三官寺の1カ所になぜ様似が選ばれたのか、については、場所として繁栄していた、海陸交通のむすび目として重要、東蝦夷地警備の要所、などが要因として考えられています。



昭和初期の等澗院(現本町郵便局付近)。オコタヌシから移築した護摩堂を本堂として使用していた。

国指定重要文化財 [平成17年6月9日] 様似町指定文化財 [昭和58年4月12日]

等澗院古文書



等澗院古文書は、開山住職秀暁の選任から11世住職徳弁に至るまで、主に幕府や他の寺とのやりとりについて書かれた文書類である。

住職記13冊と什物張1冊、過去帳(霊簿)1冊が国指定重要文化財、他に書付(寺禄減法通知書)1通が町指定文化財となっている。

百万遍念珠箱



百万遍とは、僧や信者が集まり、念仏を百万回というほど繰り返し多く唱えることを言い、その時に使われる大きな数珠や、念仏の回数を数えるための器具がついた入れ物を百万遍念珠箱という。